



Title	目録 平野弥十郎関係資料
Author(s)	井上, 高聡
Citation	北海道大学大学文書館年報, 10, 83-85
Issue Date	2015-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59214
Type	other
File Information	ARHUA10_005.pdf



< 資 料 >

〔目録〕 平野弥十郎関係資料

資料番号		資料表記			付帯情報	
番号	類別	資料名	年・年度・自至	作成者	年代	形態
0001	A	平野父翁昔日語 壹之巻 [伊藤家本]	文政六末年より弘 化四末年に至る	平野弥十郎	1823-47	和装
0002	A	平野父翁昔日語 貳之巻 [伊藤家本]	嘉永元申年より万 延元申年に至る	平野弥十郎	1848-60	和装
0003	A	平野父翁昔日語 三之巻 [伊藤家本]	文久元酉年より慶 応三卯年に至る	平野弥十郎	1861-67	和装
0004	A	平野父翁昔日語 四之巻 [伊藤家本]	明治元辰年より同 三午年に至る	平野弥十郎	1868-70	和装
0005	A	平野父翁昔日語 五之巻 [伊藤家本]	明治四末年より同 八亥年に至る	平野弥十郎	1871-75	和装
0006	A	平野父翁昔日語 六之巻 [伊藤家本]	明治九子年より同 十五午年に至る	平野弥十郎	1876-82	和装
0007	A	平野面堂翁日誌 第壹巻 第 貳巻 [中村家本]	文政六末年より弘 化四末年に至る 嘉永元申年より万 延元申年に至る	平野弥十郎	1823-60	和装
0008	A	平野面堂翁日誌 第参巻 第 四巻 [中村家本]	文久元酉年より慶 応三卯年に至る 明治元辰年より全 三午年に至る	平野弥十郎	1861-70	和装
0009	G	俳諧歌愛敬百首 [一之巻～ 五之巻]	文政八酉		1825	和装本
0010	G	俳諧歌愛敬百首 [六之巻～ 十之巻]	文政八酉		1825	和装本
0011	G	六百番歌賞合	文政七申年	新泉園鷺丸（勸進）	1824	和装本

- [注] (1) 類別欄は、A（日記）、G（刊行物）を表す。
 (2) 資料表記欄では、内容等から推定した場合は [] とした。



伊藤家本「平野父翁昔日語」(0001-0006)

【 解 題 】

井 上 高 聡

1、平野弥十郎の経歴

平野弥十郎は、江戸の商人の家に生まれた。商人として成人後、土木工事の請負をするようになり、いくつかの大きな工事を手がけ名を上げた。明治維新後は開拓使に奉職し札幌周辺の多くの営繕事業に携わった。

略年譜は以下の通りである。桑原真人・田中彰編『平野弥十郎幕末・維新日記』（北海道大学図書刊行会、2000年2月）所載の「平野弥十郎年譜」によった。なお1873年1月1日以前の和暦の年月日を新暦（太陽太陰暦）による西暦年月日に改めた。



平野弥十郎

- 1823年3月 10日、江戸浅草の雪踏仲買商飯田家に生まれる（幼名源八郎）
- 1843年12月 江戸京橋の雪踏下駄商平野家の養子となり、2代目平野弥一を名乗る
- 1850年1月 このころから土工請負を始める
- 1854年1月 薩摩藩の芝田町屋敷台場築造工事を請け負い、名を上げる
- 1858年8月 神奈川台場工事を請け負う
- 1865年11月 築地ホテル館建築工事を請け負う
- 1869年8月 東京横浜間鉄道工事の土木事業を請け負う
- 1872年2月 開拓使御用係に奉職する、このころ弥十郎と改称
- 1875年4月 開拓使を依願退職
 - 5月 東京田町に新聞売捌店を開業
- 1876年7月 神奈川県庁に奉職（～1877年8月）
- 1879年5月 札幌に引っ越す
 - 11月 開拓使工業局土木課兼営繕課に奉職
- 1880年9月 受洗する
- 1883年2月 農商務省北海同事業管理局札幌工業事務所技手となる
- 1886年1月 農商務省非職
- 1887年11月 札幌禁酒会（会頭伊藤一隆）発足に参加し、役員となる
- 1889年10月 6日、逝去

弥十郎の四男は札幌農学校第1期生伊藤一隆（1859-1929年）であり、次女千代（1867-1921年）は同じく第1期生の大島正健と結婚した。また、弥十郎本人が開拓使に奉職し、札幌独立基督教会や札幌禁酒会に参画していたこともあり、札幌農学校との関係は深い。

2、「平野弥十郎関係資料」について

大学文書館は、2013年8月6日、札幌大学学長桑原真人氏を介し、平野弥十郎のご子孫に当たる伊藤朝子氏・梶純夫氏・中村敏彦氏から「平野弥十郎関係資料」11点の寄贈を受けた。桑原氏が故田中彰氏（当時は北海道大学名誉教授）らと共に前掲『平野弥十郎幕末・維新日記』を編集・刊行したことを契機として、同資料を旧蔵者からお預かりになっていた。「平野弥十郎関係資料」の内訳は、1823-1882年のいわゆる「平野弥十郎日記」8点と、弥十郎の趣味であった狂歌本3点である。

「平野弥十郎日記」はいずれも写本であり、その系統は3種類である。

①大島家本「平野弥十郎日記」（10巻、大島正健旧蔵）

弥十郎の次女千代が嫁いだ大島正健の旧蔵本。1977年に大島智夫氏が北海道大学附属図書館に寄贈し、現在は北海道大学大学文書館が所蔵する（「大島正健・大島正満・大島智夫関係資料」0148-0157）。

②伊藤家本「平野父翁昔日語」（6巻、伊藤一隆旧蔵）

弥十郎の四男で伊藤家の養子となった伊藤一隆の旧蔵本。いずれも伊藤一隆のご縁戚に当たる伊藤朝子氏から第1-4巻を、梶純夫氏から第5、6巻を受贈した（「平野弥十郎関係資料」0001-0006）。

③中村家本「平野面堂翁日誌」（4巻、中村敏彦氏旧蔵）

弥十郎の六男で中村家の養子となった中村邦佐のご令孫中村敏彦氏から第1-4巻を受贈した（「平野弥十郎関係資料」0007、0008）。第5、6巻については現在所在不明であるが、コピー複写を北海道立図書館北方資料室が所蔵している。

10巻構成の大島家本と6巻構成の伊藤家本・中村家本は、構成巻数は異なるが同じ日記原本からの写本である。また、②と③の複製・製本した私製本を北海道大学附属図書館北方資料室が所蔵している。

「平野弥十郎日記」はこの3種の写本を基に、『平野弥十郎幕末・維新日記』として翻刻・刊行がなされ、平野弥十郎や日記について詳細な解説・解題を掲載している。



中村家本「平野面堂翁日誌」
(0007、0008)

（いのうえ たかあき／北海道大学大学文書館員）